

米軍基地環境カルテ

安波訓練場（施設番号：FAC6102）

平成 29 年 3 月

沖 縄 県

目次

2. 安波訓練場（施設番号：FAC6102）	2-1
2.1 基本情報	2-1
2.1.1 名称	2-1
2.1.2 所在地、広さ（施設面積）	2-1
2.1.3 施設の概要等	2-2
2.1.4 施設の管理及び用途	2-2
2.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	2-2
2.1.6 土地利用規制図	2-2
2.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	2-2
2.2.1 基地等の土地の状況	2-2
2.2.1.1 地形分類図	2-2
2.2.1.2 表層地質図	2-2
2.2.1.3 土壌図	2-2
2.2.1.4 切盛土分布図	2-2
2.2.2 基地内の施設の使用状況	2-2
2.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	2-2
2.2.2.2 施設等使用履歴	2-2
2.3 基地等の環境状況	2-3
2.3.1 自然環境（植物）	2-3
2.3.1.1 現存植生図	2-3
2.3.1.2 植生自然度図	2-3
2.3.1.3 特定植物群落	2-3
2.3.1.4 重要な種、貴重な種等	2-4
2.3.2 自然環境（動物）	2-4
2.3.2.1 重要な種、貴重な種等	2-4
2.3.3 水利用状況	2-5
2.3.3.1 水利用状況	2-5
2.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	2-6
2.3.3.3 河川及びダムの分布状況	2-7
2.3.4 地下水の状況	2-8
2.3.4.1 地下水基盤面等高線図	2-8
2.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	2-8
2.4.1 事故等の概要	2-8
2.4.2 事故等発生場所	2-8
2.5 環境調査を実施する場合の留意事項	2-8
2.6 その他情報	2-9

2.7 環境等に関する通常監視について	2-9
---------------------------	-----

2. 安波訓練場（施設番号：FAC6102）

2.1 基本情報

2.1.1 名称

安波訓練場（施設番号：FAC6102）

2.1.2 所在地、広さ（施設面積）

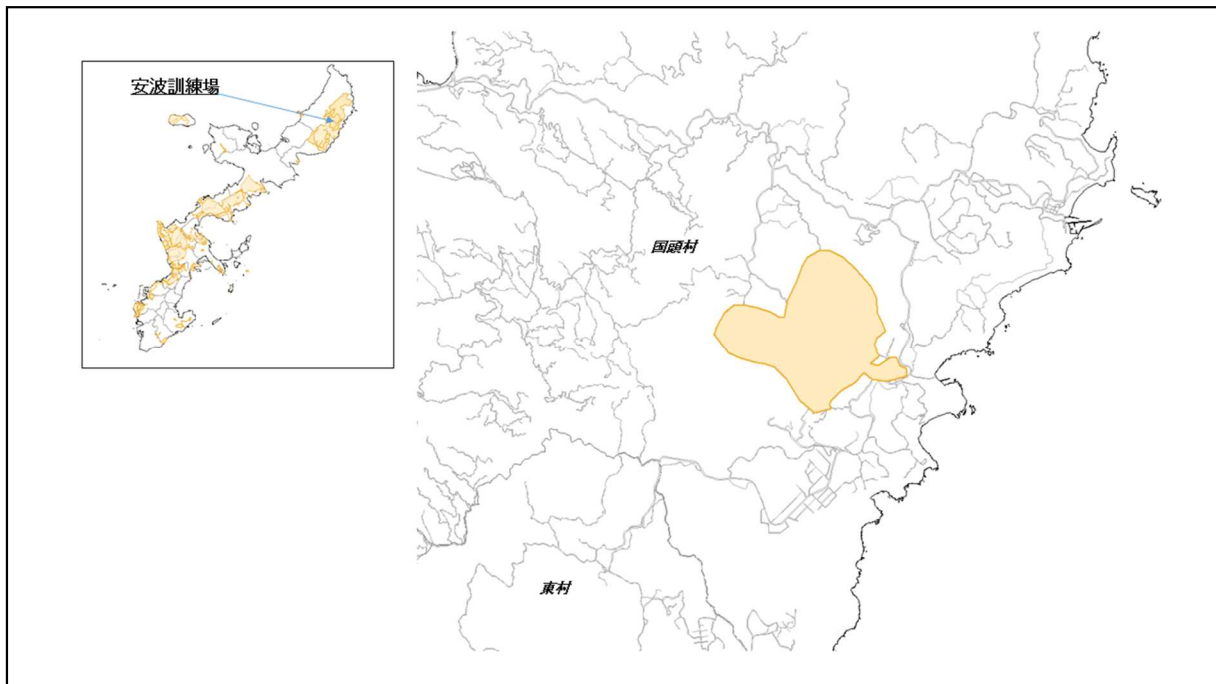
<昭和47年5月15日>

所在地：国頭村字安波

広 さ：約5,250千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照



出典：「沖縄の米軍基地」（平成10年3月、沖縄県総務部知事公室基地対策室）より引用

図 2-1 安波訓練場の位置図（昭和47年時）及び航空写真

2.1.3 施設の概要等

平成 10 年 12 月 22 日、全部返還。

2.1.4 施設の管理及び用途

平成 10 年 12 月 22 日、全部返還。

2.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

平成 13 年度に調査設計を行い、ダム湖面の利活用、自然体験、滞在型の拠点整備事業を実施し、平成 19 年 2 月に国頭村環境教育センター（学びの森）を開設した。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

2.1.6 土地利用規制図

安波訓練場跡地及び周辺の土地利用規制図を図面集「[土地利用規制図A](#)」に示す。

2.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

2.2.1 基地等の土地の状況

2.2.1.1 地形分類図

安波訓練場跡地及び周辺の地形分類図を図面集「[地形分類図A](#)」に示す。

2.2.1.2 表層地質図

安波訓練場跡地及び周辺の表層地質図を図面集「[表層地質図A](#)」に示す。

2.2.1.3 土壌図

安波訓練場跡地及び周辺の土壌図を図面集「[土壌図A](#)」に示す。

2.2.1.4 切盛土分布図

安波訓練場跡地の切盛土分布図は作成されていない。

2.2.2 基地内の施設の使用状況

2.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

安波訓練場の施設配置図は確認できなかった。

2.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 38 年 11 月 2 日 使用開始。

昭和 47 年 5 月 14 日 海岸側の集落地付近（2,106 千 m^2 ）を返還。

昭和 47 年 5 月 15 日 「安波訓練場」として提供開始（使用主目的：訓練場）。

昭和 58 年 3 月 31 日 安波ダム（湛水面積 0.83 千 m^2 ）が国頭村安波に完成。

昭和 62 年 11 月 26 日 北部ダム工事のため 96 千 m^2 を返還し、うち 4.1 千 m^2 を地位協定第 2 条第 4 項（b）の適用ある施設及び区域として追加提供。

平成 10 年 12 月 22 日 全部返還。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 10 年 3 月、沖縄県総務部知事公室基地対策室）、
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

< 主要建物及び工作物 >

建 物：－

工作物：－

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 10 年 3 月、沖縄県総務部知事公室基地対策室）より引用

2.3 基地等の環境状況

2.3.1 自然環境（植物）

2.3.1.1 現存植生図

安波訓練場跡地及び周辺の現存植生図を図面集「[現存植生図A](#)」に示す。

2.3.1.2 植生自然度図

安波訓練場跡地及び周辺の植生自然度図を図面集「[植生自然度図A](#)」に示す。

2.3.1.3 特定植物群落

安波訓練場跡地及び周辺の特定植物群落を表 2-1 に示す。安波訓練場跡地及び周辺の特定植物群落として「タナガークグムの植物群落」、「国頭村安波御嶽の植生」、「安波のサキシマスオウノキ」がある。

表 2-1 安波訓練場跡地及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	タナガークグムの植物群落	B, C, D	亜熱帯常緑広葉高木林	国指定天然記念物
2	国頭村安波御嶽の植生	E	亜熱帯常緑広葉高木林	
3	安波のサキシマスオウノキ	D	亜熱帯常緑広葉高木林	県指定天然記念物

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

2.3.1.4 重要な種、貴重な種等

安波訓練場跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）を表 2-2 に示す。安波訓練場跡地及び周辺の国指定天然記念物として「安波のタナガールグムの植物群落」、県指定天然記念物として「安波のサキシマスオウノキ」がある。

表 2-2 安波訓練場跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）

No.	名称	所在地	区分
1	安波のタナガールグムの植物群落	国頭村字安波	国指定天然記念物
2	安波のサキシマスオウノキ	国頭村字安波	県指定天然記念物

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

2.3.2 自然環境（動物）

2.3.2.1 重要な種、貴重な種等

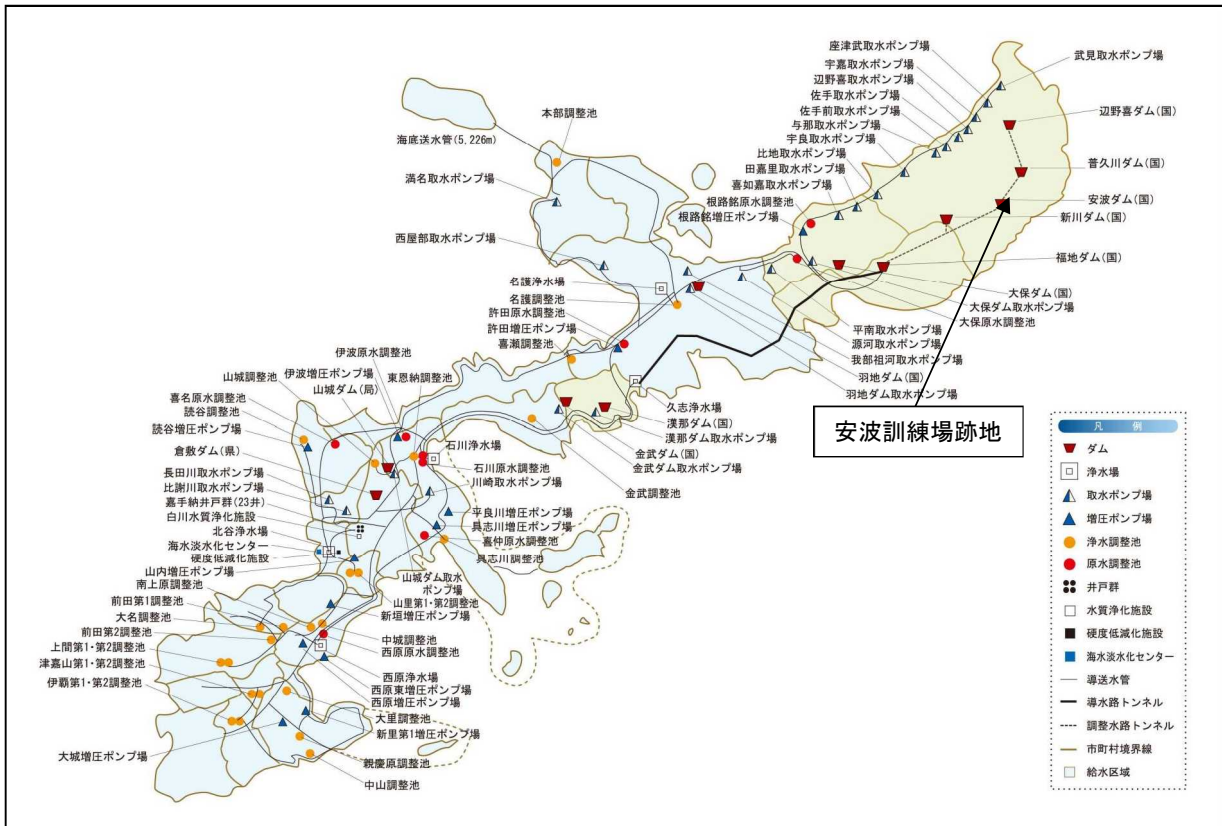
安波訓練場跡地のある国頭村で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は 45 種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成 10 年 2 月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

2.3.3 水利用状況

2.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 2-2 に示す。

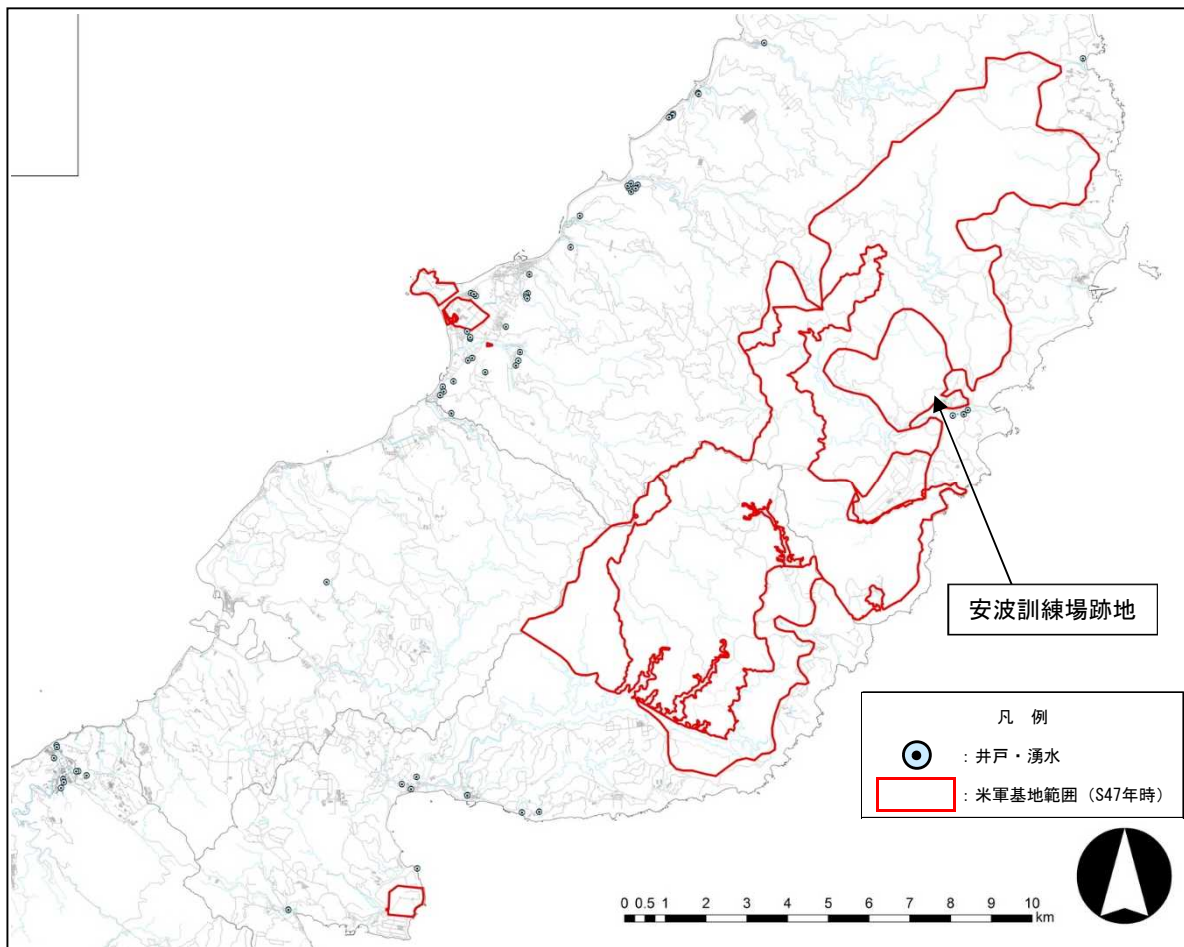


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 2-2 沖縄島及び周辺の水利用状況

2.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

安波訓練場跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 2-3 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 2-3 安波訓練場跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況

2.3.3.3 河川及びダムの分布状況

安波訓練場跡地及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 2-4、表 2-3 及び表 2-4 に示す。安波訓練場跡地及び周辺には、二級河川が3本、ダムが2つある。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成 29 年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、「沖縄の米軍基地関係資料（地位協定に基づく提供施設）」（昭和 47 年 11 月、沖縄県総務部）、「返還軍用地の施設別概要」（昭和 53 年 3 月、沖縄県企画調整部）を参照

図 2-4 安波訓練場跡地及び周辺の河川、ダム分布状況

表 2-3 安波訓練場跡地及び周辺の二級河川の概要

安波川水系	安波川	指定延長：8,500m	流域面積：42.09km ²
指定区間：（左岸）国頭村字安波以下海に至る （右岸）国頭村字安波以下海に至る			
安波川水系	普久川	指定延長：7,000m	流域面積：17.00km ²
指定区間：（左岸）国頭村字伊部以下安波川落合に至る （右岸）国頭村字伊部以下安波川落合に至る			
安波川水系	床川	指定延長：2,300m	流域面積：6.9km ²
指定区間：（左岸）国頭村字安波川瀬原国有林 30 林班い小班地先から安波川合流点まで （右岸）国頭村字安波川瀬原国有林 29 林班い小班地先から安波川合流点まで			

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/kasen/kanri/okinawanokasensiryousitu.html>、平成 28 年 8 月 23 日閲覧) を参照

表 2-4 安波訓練場跡地及び周辺のダムの概要

名称：(国)安波ダム	所在地：沖縄県国頭郡国頭村字安波小字川瀬原地先
河川：安波川水系安波川	ダム湖名：クイナ湖
型式：重力式コンクリートダム(本ダム)、ロックフィルダム(脇ダム)	
集水面積：22.5km ²	貯水池面積：0.83km ² 目的：F/N/W/I
名称：(国)普久川ダム	所在地：沖縄県国頭郡国頭村字安波小字原道原地先
河川：安波川水系普久川	ダム湖名：フンガー湖 型式：重力式コンクリートダム
集水面積：8.9km ²	貯水池面積：0.31km ² 目的：F/N/W/I

◆ 目的の凡例 F：洪水調節、N：流水の正常な機能の維持、W：水道用水、I：工業用水、A：特定かんがい用水

出典：内閣府沖縄総合事務局北部ダム統合管理所ホームページ「やんばるのダム」

(http://www.dc.ogb.go.jp/toukan/dam/9dam_map.html、平成 28 年 12 月 20 日閲覧) を参照

2.3.4 地下水の状況

2.3.4.1 地下水基盤面等高線図

安波訓練場跡地及び周辺の地下水基盤面等高線図は作成されていない。

2.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

2.4.1 事故等の概要

安波訓練場及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 2-5 に示す。安波訓練場では、ヘリコプターの墜落炎上事故が 1 件確認された。

表 2-5 安波訓練場及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
昭和 50 年 6 月 24 日	国頭村	普天間飛行場第 164 海兵隊中隊所属の CH-46 ヘリコプターが訓練飛行中、国頭村安波ダム建設現場の工事資材運搬用ワイヤーロープに接触し墜落炎上、乗員 3 人が死亡した。	墜落

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）を参照

2.4.2 事故等発生場所

安波訓練場及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

2.5 環境調査を実施する場合の留意事項

特になし。

2.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下、「NARA」と言う。）で収集した在日米軍関係資料のうち、安波訓練場及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 2-6 に示す。

安波訓練場及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 2-6 安波訓練場及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1971 年	—	図	安波訓練場の地図。

2.7 環境等に関する通常監視について

安波訓練場及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていなかった。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、

「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、

「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照

